

# 民族薬物資料館

# Museum of Materia Medica

館長 小松 かつ子

Curator

Katsuko Komatsu (Ph.D.)

技術補佐員 出口 鳴美

Research Assistant

Narumi Deguchi

## ◇目的 Aims

世界の諸民族の伝統薬物を蒐集、保存、展示するとともに、それらの学術情報を収載したデータベースを構築し、伝統薬物に関する共同研究を推進する。

## ◇活動内容 Activities

### I) 民族薬物データベース (ETHMEDmmm) の構築

当資料館には、和漢薬、アーユルヴェーダ生薬、ユナニー生薬、チベット生薬など計 24,000 点余の生薬標本が保存されている。これらに関するデータベースを順次開発し、生薬標本情報並びに学術情報を整理し、構築している。その内本年は、和漢薬データベースの英語版を作成し、Web 上で公開した。さらに、アーユルヴェーダ生薬データベース及びユナニー生薬データベースに構築されている各種情報の校正と新たな登録作業を行った。

### II) 一般公開

平成 17 年 10 月 29 日に第 8 回の民族薬物資料館一般公開を実施した。予約制とし、10 時、11 時、14 時、15 時、16 時からの 5 回に分けて各 1 時間、生薬の解説を加えながら館内を案内した。特設展示として、海外調査研究「漢薬資源をアジアに求めて」の成果をパネルにまとめ、また今年から翻訳を開始した中国薬草古典『証類本草』の紹介を行った。13:00~13:50 に和漢医薬学総合研究所民族薬物研究センター長の済木育夫教授による講演会「がんと和漢薬」を開催した。来館者は 60 名、講演会参加者は 30 名。この一般公開は同研究所生薬資源科学分野の全面的な協力の下に行われた。

## ◇記録 Records

### I) 見学者 (2005 年 4 月 1 日 ~ 2006 年 3 月 31 日)

来館者総数: 428 名 (日本人 266 名、外国人 162 名)

案内総回数: 88 回 (日本人 61 回、外国人 27 回)

外国人の国名(人数): 中国(73)、韓国(60)、モンゴル国(14)、アラブ首長国連邦(5)、南アフリカ共和国(3)、アメリカ、ブータン(各 2)、オーストラリア、スーダン、イギリス(各 1)

### II) 民族薬物データベース (2005 年 4 月 1 日 ~ 2006 年 3 月 31 日)

アクセス数: 8,243 件

専門検索アクセス数: 1,503 件 (日本語 1,404 件、英語 99 件\*)

専門検索登録者数: 156 名 (日本語 144 名、英語 12 名\*) (全 952 名)

一般検索アクセス数: 1,669 件\* (日本語 1,543 件\*、英語 126 件\*)

\*2005 年 7 月 15 日 ~ 2006 年 3 月 31 日の集計